

## 資料6 廃棄物のフローと将来推計

### 1 家庭ごみ・資源のフロー推計

一般廃棄物処理基本計画の策定に際しては、ごみの減量目標と減量目標を達成するための具体的施策を検討する必要がある。

そのための基礎資料として、小平市のごみ・資源量、組成分析調査、市民アンケート調査などより、家庭から排出されるごみ・資源の品目別のフローを推計する。

#### (1) ごみ・資源量

収集ごみには一部事業系ごみが含まれているが、その割合は少量と推測されることから、収集ごみ=家庭ごみとして推計する。

資源は、集団回収、行政回収(集積所回収、店頭回収、拠点回収など)、食物資源循環事業などである。

表1 平成28年度のごみ・資源量

		単位(t/年)				
		収集ごみ	集団回収	行政回収	資源合計	ごみ・資源合計
ごみ	燃えるごみ	29,055				29,055
	燃えないごみ	4,463				4,463
	粗大ごみ	1,068				1,068
	ごみ合計	34,586				34,586
資源	アルミ缶		32	282	314	314
	スチール缶			208	208	208
	生きビン			59	59	59
	カレット			1,239	1,239	1,239
	新聞		830	713	1,543	1,543
	雑誌(雑がみ含む)		551	3,322	3,873	3,873
	シュレッダー紙					
	段ボール		531	1,576	2,107	2,107
	古布・わた		78	843	921	921
	牛乳パック		9	13	22	22
	白色トレイ			2	2	2
	ペットボトル			579	579	579
	その他プラスチック			640	640	640
	金属類		13	75	88	88
	優良粗大ごみ			25	25	25
	有害資源			68	68	68
	剪定枝			45	45	45
	生ごみ一次処理物			33	33	33
	資源循環モデル事業			60	60	60
	キャップ			9	9	9
	その他(鍋など)			15	15	15
	陶磁器			7	7	7
	スプレー・ガスカートリッジ缶			31	31	31
ライター			2	2	2	
小型家電			3	3	3	
小計			2,044	9,849	11,893	11,893
合計		34,586	2,044	9,849	11,893	46,479

## (2) 組成分析調査結果による収集ごみの按分

平成 28 年度の「燃えるごみ」「燃えないごみ」のごみ量を、平成 28 年度に実施したごみ組成分析調査結果で按分することで、品目別のごみ量を推計した。

表 2 「燃えるごみ」「燃えないごみ」の品目別のごみ量

		割合		推計量(t/年)		
		燃えるごみ	燃えないごみ	燃えるごみ	燃えないごみ	合計
可燃性資源	新聞紙・折込広告	0.7%	0.2%	208	9	217
	雑誌・書籍	1.0%	0.0%	303	0	303
	段ボール	0.3%	0.1%	97	4	101
	雑紙	6.8%	0.6%	1,964	28	1,992
	シュレッダー紙	0.1%	0.0%	26	0	26
	古布(古着)・ふとん	0.8%	0.3%	219	15	234
	ぬいぐるみ等	0.1%	0.0%	22	0	22
不燃性資源	ガラスびん	0.1%	2.5%	17	114	130
	缶類	0.0%	0.9%	11	40	51
	ペットボトル	0.1%	0.4%	33	19	53
	硬質プラスチック(資源)	1.1%	9.4%	310	421	731
	その他の発泡トレイ	0.0%	0.1%	5	4	9
	キャップ類	0.0%	0.2%	7	9	17
	スプレー缶・ガスカートリッジ缶、ライター(中身なし)	0.0%	0.2%	0	10	11
	スプレー缶・ガスカートリッジ缶、ライター(中身あり)	0.0%	0.0%	0	2	2
有害性資源	金属製のなべ・やかん・フライパン	0.0%	1.0%	0	45	45
	蛍光管	0.0%	0.0%	0	0	0
	乾電池	0.0%	0.1%	2	6	8
その他資源	水銀体温計(血圧計)・温度計	0.0%	0.0%	0	0	0
	紙バック	0.6%	0.0%	178	2	179
	剪定枝	0.0%	0.0%	9	0	9
可燃物	白色トレイ	0.0%	0.1%	7	7	13
	生ごみ(厨芥類)	45.5%	0.2%	13,210	10	13,219
	生ごみ(未利用品)	1.4%	0.5%	418	23	441
	その他紙類	12.0%	0.4%	3,492	17	3,509
	剪定枝以外の草・木類	6.2%	0.4%	1,801	17	1,818
	レジ袋・プラスチック袋(未使用)	0.3%	0.1%	83	5	88
	軟質プラスチック	5.2%	4.2%	1,499	188	1,687
	インクリボン・カートリッジ	0.0%	0.1%	0	4	4
	紙おむつ	11.7%	0.0%	3,387	0	3,387
不燃物	その他可燃物	3.3%	1.1%	969	50	1,019
	チューブ	0.1%	0.7%	16	33	49
	発泡スチロール	0.0%	1.2%	0	53	53
	主としてプラスチックでできている製品プラスチック	0.3%	26.0%	78	1,159	1,237
	紙及び木材が含まれる製品プラスチック	0.0%	0.1%	0	3	3
	金属が含まれる製品プラスチック	0.4%	0.7%	108	32	140
	電気・電池を用いる製品プラスチック	0.0%	4.8%	0	213	213
	ゴム・皮革類	0.1%	8.5%	34	380	414
	その他金属類	0.0%	6.4%	10	287	297
	テープ類	0.0%	2.6%	0	118	118
	小型家電製品(36品目)	0.0%	2.2%	2	96	98
	陶磁器	0.0%	7.8%	0	350	351
	その他不燃物	0.0%	14.1%	5	630	635
収集不適物	0.3%	0.0%	100	0	100	
外袋・内袋	レジ袋(内袋)	0.6%	0.4%	169	18	188
	プラスチック袋	0.5%	0.4%	136	16	152
	レジ袋	0.4%	0.6%	117	28	145
合計		100.0%	100.0%	29,055	4,463	33,518

### (3) 家庭ごみ・資源のフロー推計

新聞販売店回収やペットボトルの店頭回収など、小平市で把握していないデータについては、行政回収量のデータと、市民アンケート調査の回答割合から推計した。

行政回収の雑誌・書籍には、菓子箱、包装紙、封筒、チラシなどの「雑がみ」が含まれている。平成23年6月に実施した紙製容器包装リサイクル推進協議会による小平市の組成分析調査結果より、「雑誌・書籍」の32%を「雑がみ」と推計した。

以上より、小平市の家庭ごみ・資源のフロー推計を表-3に示す。一般廃棄物処理基本計画の減量目標の設定に際しては、次の品目に着目する必要がある。

#### ○雑がみ

菓子箱、包装紙、封筒、チラシなどの「雑がみ」は、1,239t がリサイクルされているが、発生量の61.6%にあたる1,992t がごみとして捨てられていると推計される。

#### ○硬質プラスチック

「硬質プラスチック」は、640t がリサイクルされているが発生量の53.3%にあたる731t がごみとして捨てられている。

#### ○未利用食品

賞味期限切れなどで未開封のまま捨てられる食品や古くなった野菜などの「未利用食品」441t がごみとして捨てられている。

#### ○生ごみ

生ごみは、ごみ量に占める割合が最も高く、未利用食品を含めると13,660t がごみとして捨てられている。

表 3 家庭ごみ・資源のフロー推計

単位 (t/年)

		燃える	燃えない	粗大	ごみ	資源量	ごみ・資源	資源化
		ごみ	ごみ					
		A	B	C	D=A+B+C	E	F=D+E	G=E÷F
可燃性資源	新聞紙・折込広告	208	9	0	217	3,309	3,526	93.9%
	雑誌・書籍	303	0	0	303	2,634	2,937	89.7%
	段ボール	97	4	0	101	2,107	2,208	95.4%
	雑がみ	1,964	28	0	1,992	1,239	3,231	38.4%
	シュレッダー紙	26	0	0	26	0	26	0.0%
	古布(古着)・ふとん	219	15	0	234	921	1,155	79.7%
	ぬいぐるみ等	22	0	0	22	0	22	0.0%
不燃性資源	ガラスびん	17	114	0	130	1,303	1,433	90.9%
	缶類	11	40	0	51	523	574	91.1%
	ペットボトル	33	19	0	53	687	740	92.9%
	硬質プラスチック(資源)	310	421	0	731	640	1,371	46.7%
	その他の発泡トレイ	5	4	0	9	0	9	0.0%
	キャップ類	7	9	0	17	9	26	34.7%
	スプレー缶・ガスカートリッジ缶、ライター(中身なし)	0	10	0	11	33	44	75.7%
	スプレー缶・ガスカートリッジ缶、ライター(中身あり)	0	2	0	2	0	2	0.0%
金属製のなべ・やかん・フライパン	0	45	0	45	15	60	24.9%	
有害性資源	蛍光管	0	0	0	0	0	0	—
	乾電池	2	6	0	8	68	76	89.4%
	水銀体温計(血圧計)・温度計	0	0	0	0	0	0	—
その他資源	紙パック	178	2	0	179	153	333	46.1%
	剪定枝	9	0	0	9	71	80	88.7%
	白色トレイ	7	7	0	13	2	15	13.1%
可燃物	生ごみ(厨芥類)	13,210	10	0	13,219	141	13,360	1.1%
	生ごみ(未利用品)	418	23	0	441	0	441	0.0%
	その他紙類	3,492	17	0	3,509	0	3,509	0.0%
	剪定枝以外の草・木類	1,801	17	0	1,818	0	1,818	0.0%
	レジ袋・プラスチック袋(未使用)	83	5	0	88	0	88	0.0%
	軟質プラスチック	1,499	188	0	1,687	0	1,687	0.0%
	インクリボン・カートリッジ	0	4	0	4	0	4	0.0%
	紙おむつ	3,387	0	0	3,387	0	3,387	0.0%
	その他可燃物	969	50	0	1,019	0	1,019	0.0%
不燃物	チューブ	16	33	0	49	0	49	0.0%
	発泡スチロール	0	53	0	53	0	53	0.0%
	主としてプラスチックでできている製品プラスチック	78	1,159	0	1,237	0	1,237	0.0%
	紙及び木材が含まれる製品プラスチック	0	3	0	3	0	3	0.0%
	金属が含まれる製品プラスチック	108	32	0	140	0	140	0.0%
	電気・電池を用いる製品プラスチック	0	213	0	213	0	213	0.0%
	ゴム・皮革類	34	380	0	414	0	414	0.0%
	その他金属類	10	287	0	297	88	385	22.9%
	テープ類	0	118	0	118	0	118	0.0%
	小型家電製品(36品目)	2	96	0	98	3	101	3.0%
	陶磁器	0	350	0	351	7	358	2.0%
その他不燃物	5	630	0	635	0	635	0.0%	
収集不適物	100	0	0	100	0	100	0.0%	
外袋・内袋	レジ袋(内袋)	169	18	0	188	0	188	0.0%
	プラスチック袋	136	16	0	152	0	152	0.0%
	レジ袋	117	28	0	145	0	145	0.0%
	粗大	0	0	1,068	1,068	25	1,093	2.3%
	合計	29,055	4,463	1,068	34,586	13,978	48,564	28.8%

## 2 ごみ・資源量の将来推計

### (1) 推計方法

#### ○各年度の人口・従業者数推計

各年度の人口は、「小平市人口推計報告書」（平成 29 年 2 月）から推計する。

各年度の従業者数は、過去 6 回の事業所・企業統計調査及び経済センサス基礎調査から推計する。

#### ○現状施策で推移したごみ・資源量の推計

収集ごみ、持込粗大、資源は家庭から排出されるものとし、平成 28 年度のごみ・資源量に、平成 28 年度の人口を 1 とした各年度の係数を乗じて推計する。

持込の燃えるごみと燃えないごみは事業系とし、平成 28 年度の従業者数を 1 とした各年度の係数を乗じて推計する。

#### ○減量シナリオの設定

家庭ごみ・資源のフロー推計などをもとに、減量シナリオと各年度の減量効果を推計する。

#### ○目標ごみ・資源量

現状で推移した場合のごみ・資源量から減量シナリオに基づく各年度の減量効果を差し引いて、目標ごみ・資源量を設定する。

### (2) 各年度の人口・従業者数推計

#### ①人口推計

「小平市人口推計報告書」（平成 29 年 2 月）の 5 年ごとの推計値から、あいだの年度を直線式で補完して推計し、平成 28 年度を 1 とした各年度の係数を算定した。

表 4 将来人口推計

年度	市人口推計 (人)	市人口推計 補完値(人)	平成28年を1と した係数	平成28年度末人 口を基準に推計 した人口
H27	190,005	190,005		
H28		190,293	1.0000	189,955
H29		190,580	1.0015	190,242
H30		190,868	1.0030	190,529
H31		191,155	1.0045	190,816
H32	191,443	191,443	1.0060	191,103
H33		191,197	1.0048	190,858
H34		190,952	1.0035	190,613
H35		190,706	1.0022	190,368
H36		190,461	1.0009	190,123
H37	190,215	190,215	0.9996	189,878
H38		189,474	0.9957	189,138
H39		188,734	0.9918	188,399
H40		187,993	0.9879	187,660
H41		187,253	0.9840	186,920
H42	186,512	186,512	0.9801	186,181

②従業者数推計

過去 6 回の事業所・企業統計調査及び経済センサス基礎調査による小平市の従業者数と年度について、直線式で相関をとり、将来の事業者数を推計した。

各年度の従業者数(人) = 209.277 × 平成年度 + 54,832

表 5 過去 5 回の事業所・企業統計調査及び  
経済センサス基礎調査の結果

年度	従業者数 (人)
H3	57,416
H8	58,625
H13	56,540
H18	55,154
H21	59,746
H26	62,094

表 6 将来従業者数推計

年度	従業者数 推計 (人)	平成28年 を1とした 係数
H28	60,692	1.0000
H29	60,901	1.0034
H30	61,111	1.0069
H31	61,320	1.0103
H32	61,529	1.0138
H33	61,738	1.0172
H34	61,948	1.0207
H35	62,157	1.0241
H36	62,366	1.0276
H37	62,575	1.0310
H38	62,785	1.0345
H39	62,994	1.0379

### (3) 現状施策で推移したごみ・資源量の推計

平成 28 年度のごみ・資源量に、平成 28 年度を 1 とした人口と従業者数の係数を乗じて、各年度のごみ・資源量を推計した。

各年度の家庭ごみ・資源量＝平成 28 年度のごみ・資源量×平成 28 年度の人口を 1 とした係数

各年度の事業系ごみ＝平成 28 年度のごみ量×平成 28 年度の従業者数を 1 とした係数

表 7 平成 28 年度のごみ・資源量

単位 (t/年)

	収集			持込			資源	
	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	集団回収	行政回収
H28	29,055	4,463	1,068	3,937	235	86	2,044	9,849

表 8 現状で推移した場合の各年度のごみ・資源量

単位 (t/年)

	収集ごみ			持込ごみ			資源	
	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	集団回収	行政回収
H28	29,055	4,463	1,068	3,937	235	86	2,044	9,849
H29	29,099	4,470	1,070	3,950	236	86	2,047	9,864
H30	29,143	4,476	1,071	3,964	237	86	2,050	9,879
H31	29,187	4,483	1,073	3,978	237	86	2,053	9,894
H32	29,231	4,490	1,074	3,991	238	87	2,056	9,909
H33	29,193	4,484	1,073	4,005	239	86	2,054	9,896
H34	29,156	4,478	1,072	4,018	240	86	2,051	9,883
H35	29,118	4,473	1,070	4,032	241	86	2,048	9,870
H36	29,081	4,467	1,069	4,046	241	86	2,046	9,858
H37	29,043	4,461	1,068	4,059	242	86	2,043	9,845
H38	28,930	4,444	1,063	4,073	243	86	2,035	9,807
H39	28,817	4,426	1,059	4,086	244	85	2,027	9,768

	収集ごみ小計	持込ごみ小計	ごみ合計	資源合計	ごみ資源合計	処理ごみ量原単位		排出物原単位	
						原単位 (g/人日)	H28を1とした係数	原単位 (g/人日)	H28を1とした係数
H28	34,586	4,258	38,844	11,893	50,737	560	1.0000	732	1.0000
H29	34,638	4,272	38,911	11,911	50,822	560	1.0002	732	1.0002
H30	34,691	4,287	38,978	11,929	50,907	560	1.0004	732	1.0003
H31	34,743	4,301	39,044	11,947	50,991	561	1.0006	732	1.0005
H32	34,795	4,316	39,111	11,965	51,076	561	1.0008	732	1.0006
H33	34,750	4,330	39,081	11,950	51,030	561	1.0013	733	1.0010
H34	34,706	4,345	39,050	11,934	50,985	561	1.0018	733	1.0014
H35	34,661	4,359	39,020	11,919	50,939	562	1.0023	733	1.0018
H36	34,617	4,373	38,990	11,903	50,893	562	1.0029	733	1.0022
H37	34,572	4,387	38,959	11,888	50,847	562	1.0034	734	1.0026
H38	34,437	4,402	38,839	11,842	50,681	563	1.0042	734	1.0032
H39	34,303	4,415	38,718	11,796	50,514	563	1.0050	735	1.0038

#### (4) 減量シナリオの設定

平成 39 年度を目標年度として次のように減量シナリオを設定する。

##### ①家庭ごみ有料化の導入（施策 1・2）

平成 31 年度に家庭ごみの有料化を導入し、燃えるごみは 10%、燃えないごみは 24%が発生抑制により減量すると仮定した。

##### ②生ごみの発生抑制・リサイクル（施策 3・4）

未利用食品は普及啓発活動などにより、平成 30 年度～39 年度にかけて均等に減量し、平成 39 年度には半減すると仮定した。

生ごみの水切りや自家処理により、平成 30 年度～39 年度にかけて均等に減量し、平成 39 年度には 5%減少すると仮定した。

##### ③容器包装プラスチック（施策 5・6）

平成 31 年度に、軟質容器包装プラスチックを含む容器包装プラスチック製容器包装の全量分別収集を実施し、平成 31 年度には、燃えるごみと燃えないごみに含まれる容器包装プラスチックの 50%が資源になると仮定した。

##### ④ビン・カン・ペットボトルのリサイクル（施策 7）

ビン・カン・ペットボトルは普及啓発活動などにより、平成 30 年度～39 年度にかけて均等に減量し、平成 39 年度には燃えないごみへの混入が 20%減量すると仮定した。

##### ⑤新聞・雑誌・段ボール・雑がみのリサイクル（施策 8）

新聞・雑誌・段ボール・雑がみは普及啓発活動などにより、平成 30 年度～39 年度にかけて均等に減量し、平成 34 年度には燃えるごみへの混入が 20%減量すると仮定した。

##### ⑥資源の発生抑制（施策 9・10）

行政回収と集団回収は発生抑制により、平成 34 年度には 10%、平成 39 年度には 15%が減量すると仮定した。

表 9 減量シナリオ

番号	分別区分	品目	3R等の区分	内容	シナリオ
1	燃えるごみ	全体	リデュース リユース	●家庭ごみ有料化による発生抑制	H31以降は10%の減量
2	燃えないごみ	全体	リデュース リユース	●家庭ごみ有料化と収集頻度の減少による発生抑制	H31以降は24%の減量
3	燃えるごみ	未利用食品	リデュース リユース	●未利用食品の廃棄抑制	H39に未利用食品の割合が半減 H30～H39までに均等に減量
4	燃えるごみ	生ごみ	リデュース リユース	●水切り ●自家処理	H39に水切り等により生ごみが5%減少 H30～H39までに均等に減量
5	燃えるごみ	容器包装プラスチック	リサイクル	●軟質プラスチック製容器包装の分別収集実施と分別の徹底	H31以降は50%の減量
6	燃えないごみ	容器包装プラスチック	リサイクル	●軟質プラスチック製容器包装の分別収集実施と分別の徹底	H31以降は50%の減量
7	燃えるごみ	新聞・雑誌・段ボール・雑がみ	リサイクル	●分別排出の向上	H39に20%減少 H30～H39までに均等に減量
8	燃えないごみ	びん・缶・ペットボトル	リサイクル	●分別排出の向上	H39に20%減少 H30～H39までに均等に減量
9	行政回収	全体	リデュース リユース	●発生抑制	H34に10%減少、H39までに15%減少 H30～H34、H35-39は毎年均等に減量
10	集団回収	全体	リデュース リユース	●発生抑制	H34に10%減少、H39までに15%減少 H30～H34、H35-39は毎年均等に減量

## (5) ごみ・資源量の推計

現状施策で推移したごみ・資源量から減量シナリオで設定した各年度の減量効果を差し引いて、各年度のごみ・資源量を推計した。

平成 39 年度の排出物原単位は 628(g/人日)で、平成 24 年度の 771(g/人日)と比較して 18.5%の減量となる。

平成 39 年度の処理ごみ量原単位は 468(g/人日)で、平成 24 年度の 595(g/人日)と比較して 21.3%の減量となる。

表 10 計画ごみ・資源量

	収集ごみ			持込ごみ			資源	
	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	集団回収	行政回収
H28	29,055	4,463	1,068	3,937	235	86	2,044	9,849
H29	29,099	4,470	1,070	3,950	236	86	2,047	9,864
H30	29,030	4,475	1,071	3,964	237	86	2,037	9,681
H31	24,929	3,019	1,073	3,978	237	86	2,028	10,183
H32	24,853	3,022	1,074	3,991	238	87	2,018	10,000
H33	24,707	3,016	1,073	4,005	239	86	2,002	9,789
H34	24,562	3,011	1,072	4,018	240	86	1,987	9,578
H35	24,417	3,005	1,070	4,032	241	86	1,992	9,467
H36	24,273	2,999	1,069	4,046	241	86	1,997	9,356
H37	24,129	2,994	1,068	4,059	242	86	2,002	9,245
H38	23,922	2,980	1,063	4,073	243	86	2,002	9,110
H39	23,717	2,967	1,059	4,086	244	85	2,012	9,025

	収集ごみ小計	持込ごみ小計	ごみ合計	資源合計	ごみ資源合計	処理ごみ量原単位		排出物原単位	
						原単位 (g/人日)	H28を1とした係数	原単位 (g/人日)	H28を1とした係数
H28	34,586	4,258	38,844	11,893	50,737	560	1.000	732	1.000
H29	34,638	4,272	38,911	11,911	50,822	560	1.000	732	1.000
H30	34,576	4,287	38,863	11,718	50,581	559	0.997	727	0.994
H31	29,021	4,301	33,322	12,211	45,533	478	0.854	654	0.893
H32	28,949	4,316	33,265	12,018	45,283	477	0.851	649	0.887
H33	28,797	4,330	33,127	11,791	44,918	476	0.849	645	0.881
H34	28,644	4,345	32,989	11,565	44,554	474	0.846	640	0.875
H35	28,493	4,359	32,851	11,459	44,310	473	0.844	638	0.871
H36	28,341	4,373	32,714	11,353	44,067	471	0.841	635	0.868
H37	28,190	4,387	32,577	11,247	43,824	470	0.839	632	0.864
H38	27,966	4,402	32,368	11,113	43,480	469	0.837	630	0.861
H39	27,743	4,415	32,158	11,038	43,196	468	0.835	628	0.858

図1 排出物原単位・処理ごみ量原単位の推計

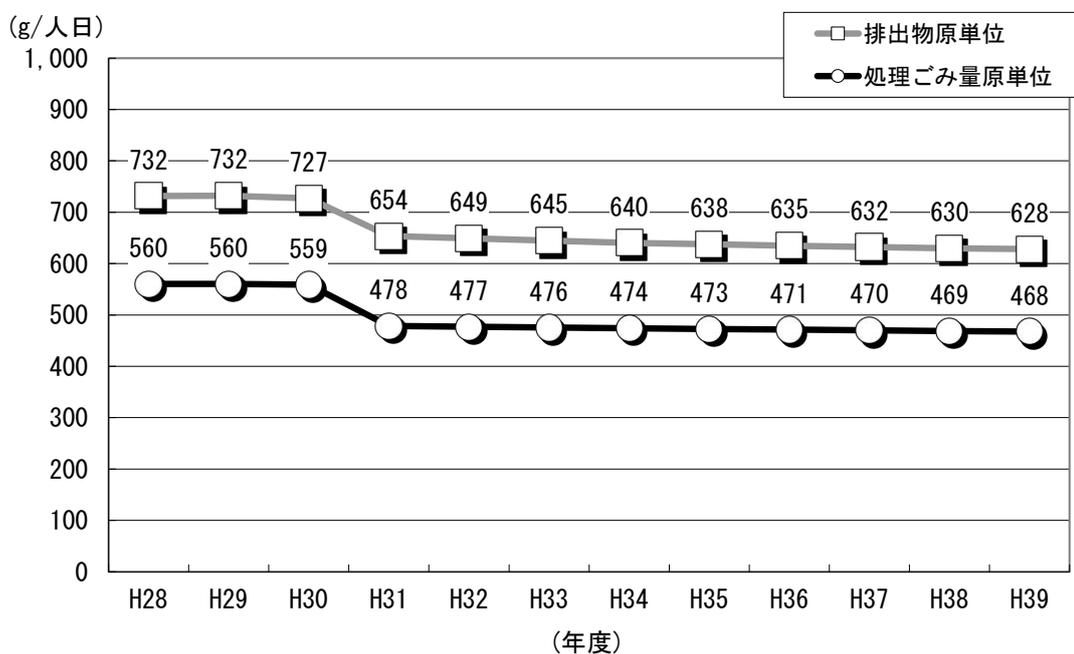


図2 現状施策で推移した場合と目標の比較（排出物原単位）

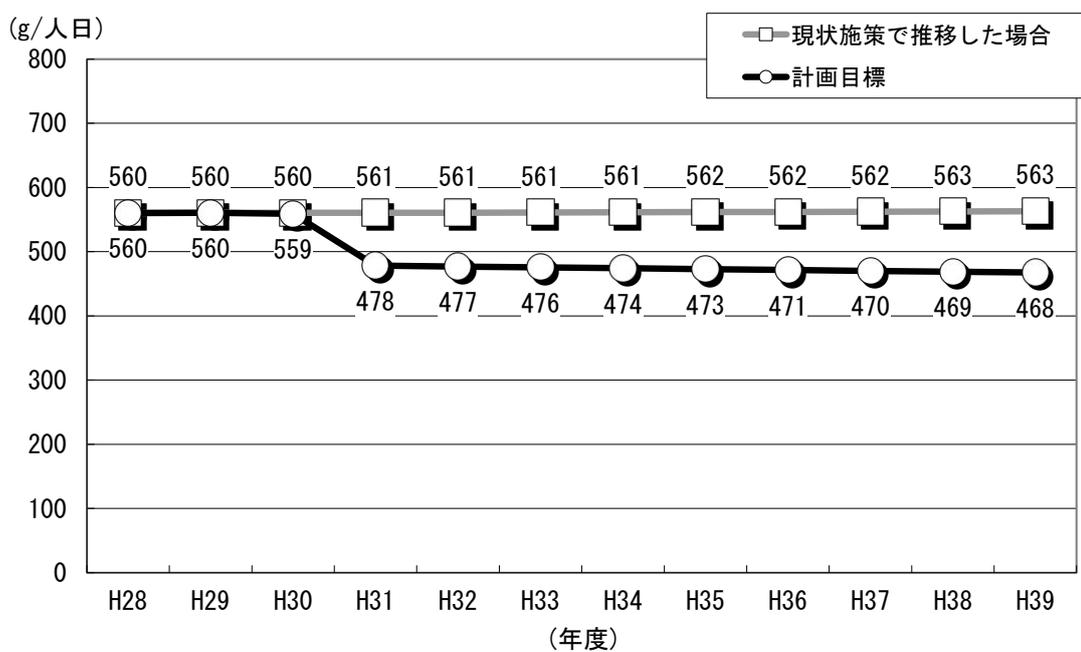


図 3 現状施策で推移した場合と目標の比較（処理ごみ量原単位）

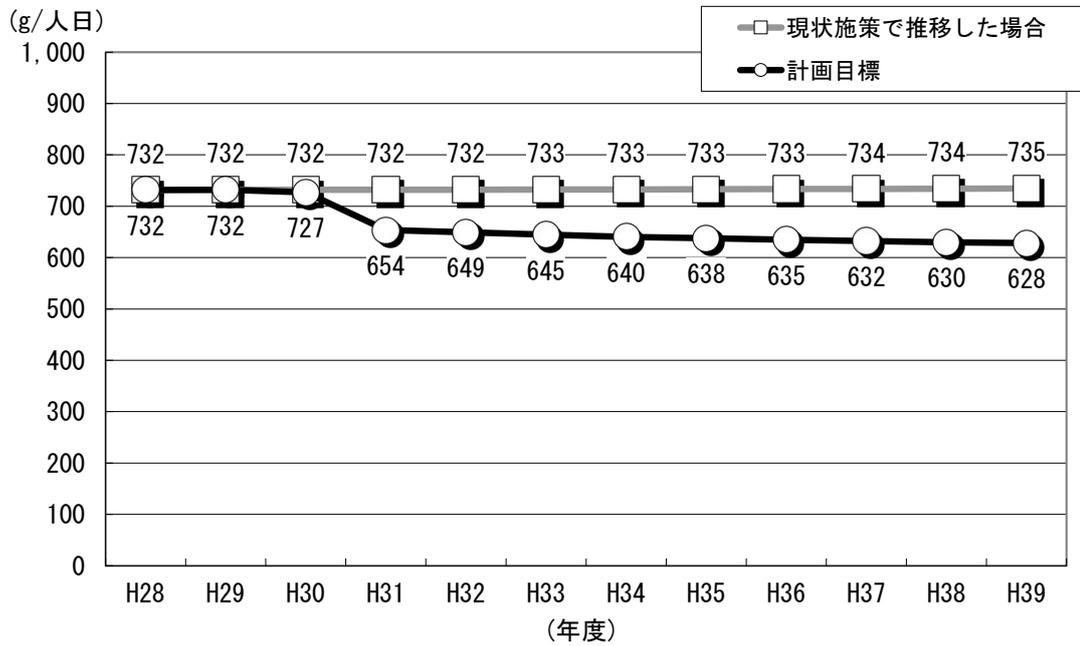


図 4 現状（平成 28 年度）のフロー図

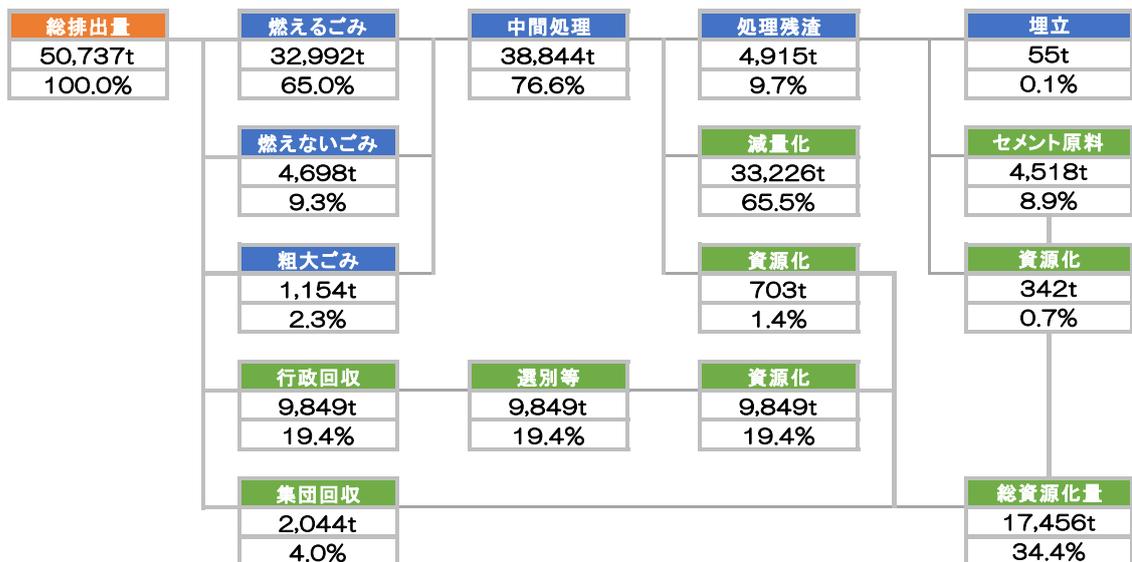


図5 平成34年度の推計フロー図

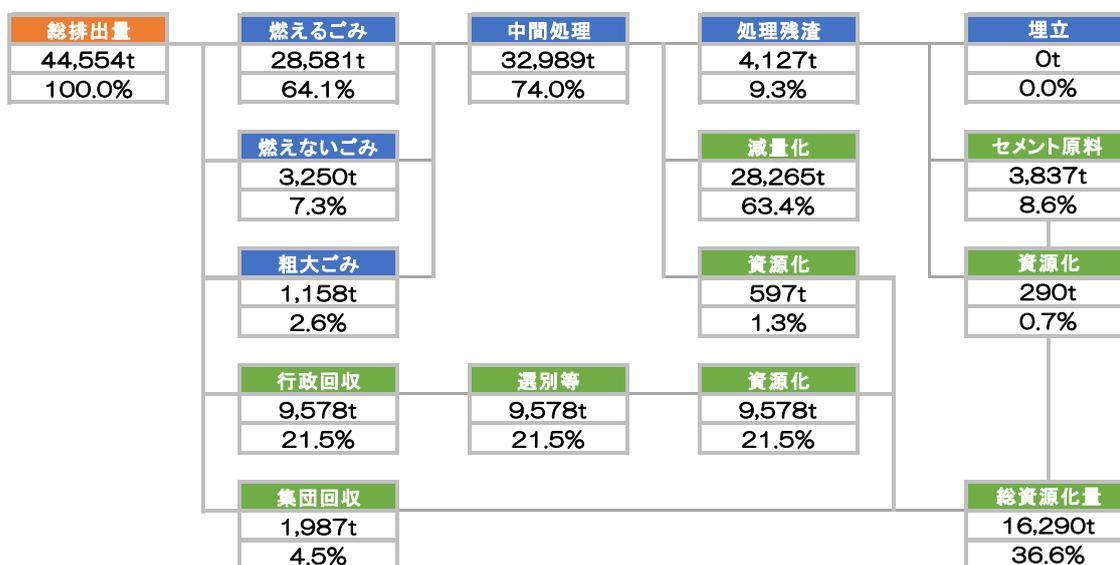
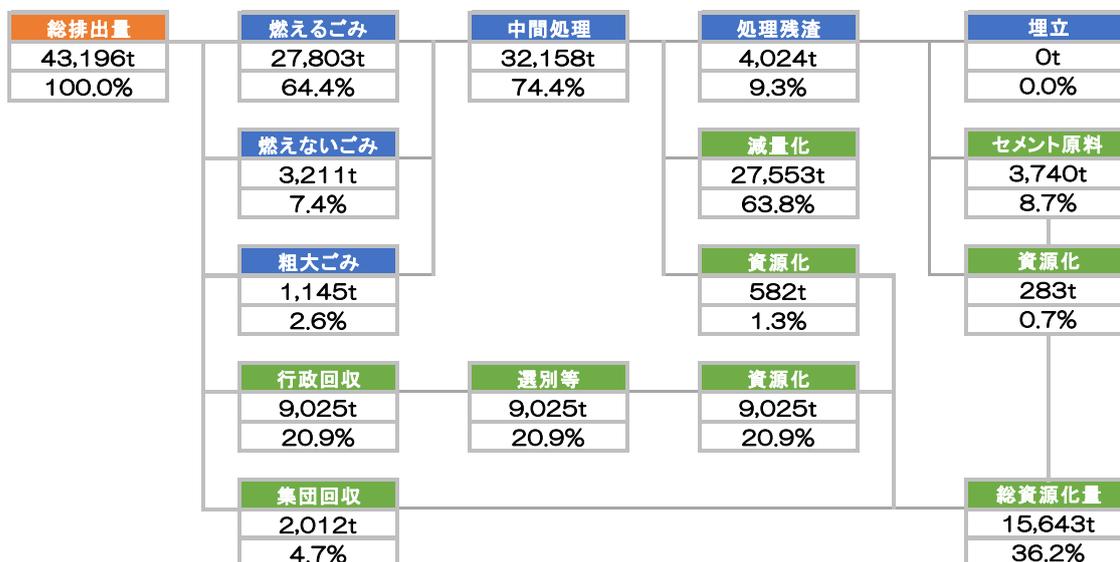
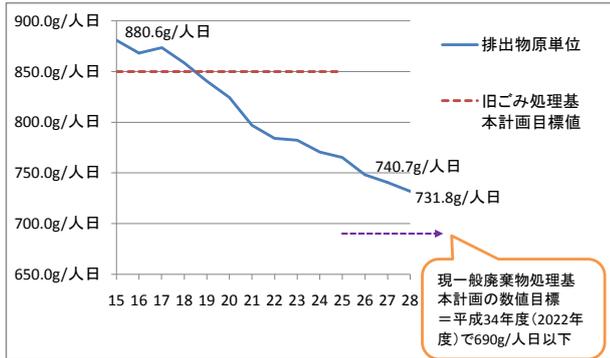


図6 平成39年度の推計フロー図

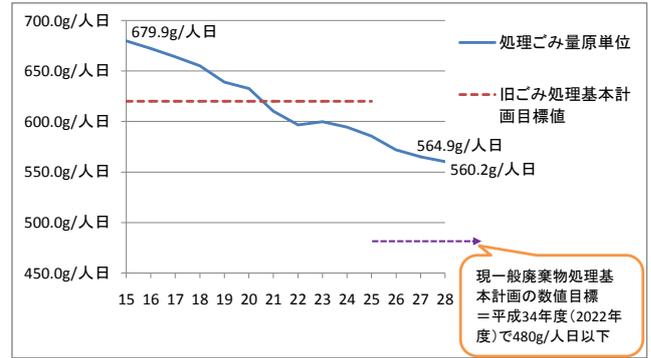


# 第7章 小平市一般廃棄物処理基本計画（旧ごみ処理基本計画） 数値目標等の推移

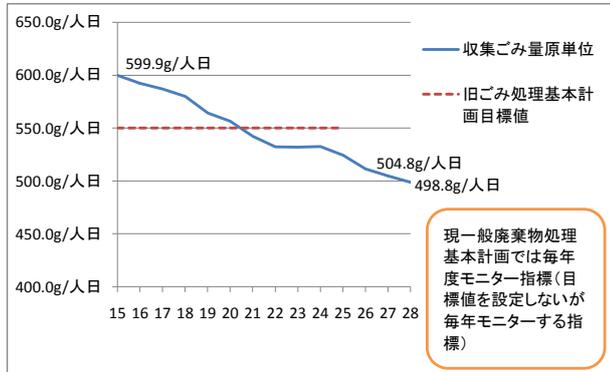
排出物原単位



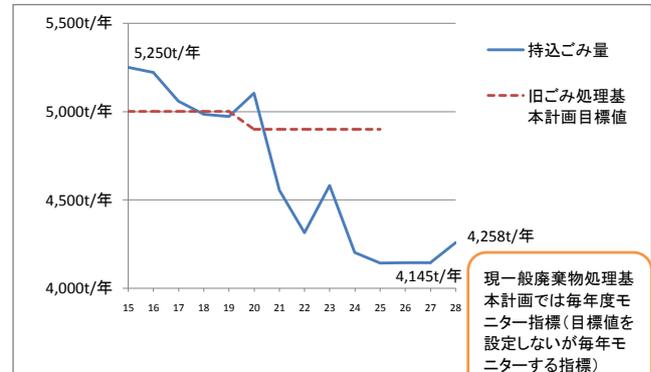
処理ごみ量原単位



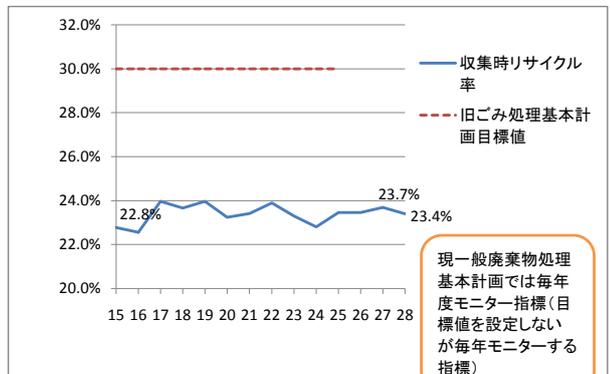
収集ごみ量原単位



持込ごみ量



収集時リサイクル率



最終処分量



	前計画目標値	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	現計画目標値 H34
排出物原単位 (g/人日)	850.0	880.6	868.1	873.3	858.5	840.5	824.3	797.1	784.0	782.2	770.6	765.1	748.2	740.7	731.8	690.0
処理ごみ量原単位 (g/人日)	620.0	679.9	672.2	663.9	655.3	639.0	632.8	610.4	596.8	599.9	594.6	585.6	572.0	564.9	560.2	480.0
収集ごみ量原単位 (g/人日)	550.0	599.9	592.4	587.0	580.0	564.2	556.4	542.3	532.4	532.1	532.5	524.5	511.4	504.8	498.8	モニター指標 (毎年度)
持込ごみ量 (t/年)	H15~:5,000 H20~:4,900	5,250	5,222	5,058	4,984	4,973	5,104	4,555	4,315	4,581	4,203	4,143	4,145	4,145	4,258	モニター指標 (毎年度)
収集時リサイクル率 (%)	30.0%	22.8%	22.6%	24.0%	23.7%	24.0%	23.2%	23.4%	23.9%	23.3%	22.8%	23.5%	23.5%	23.7%	23.4%	モニター指標 (毎年度)
最終処分量 (t/年)	H15~:5,500 H20~:5,200	5,813.0	5,539.0	5,419.0	5,280.0	5,281.0	5,119.0	4,759.0	4,635.0	4,981.0	4,885.0	4,731.0	4,777.0	4,624.0	4,573.0	モニター指標 (毎年度)
温室効果ガス排出量 (kg/人日)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.26	0.25	0.26	0.32	0.28	モニター指標 (毎年度)
資源物混入率 (%)	10%以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	可燃 12.8%	-	-	可燃 11.8%	モニター指標 (計画見直し時)
市民満足度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	モニター指標 (計画見直し時)

# 資料8 市が実施する施策の取組状況

## 1 重点施策

### (1) 3Rの推進・適正処理に向けた意識向上

項番	施策名	実施状況	評価（取組状況）
1	市報やホームページ、広報紙「ごみらいふ」を通じた積極的な啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施済み(継続中)</li> <li>・一部実施済み</li> <li>・未実施</li> </ul> 実施済み(継続中)	<p>市報や市のホームページについては、より広く周知する必要がある場合や、タイムリーな情報提供を必要とする場合など、それぞれの役割を考慮し、積極的な啓発を図っています。広報紙「ごみらいふ」については、ごみ減量推進実行委員会による協力のもと、年2回発行しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度より、分別変更を実施したため、市報特集号の発行、市民説明会の開催のほか、パンフレット「私のまちのごみと資源の出し方」を全戸配布を実施しました。</li> <li>・平成29年度には、ごみ減量推進実行委員会発足25周年を記念して、「ごみらいふ」の1面、4面をカラー化し、より積極的な啓発を図ります。</li> </ul> <p>市報掲載 平成26年度：64回、平成27年度：58回、平成28年度：53回            市報特集号 平成26年度：2回発行            主な市報掲載内容 分別変更、年末年始の収集、カラスの被害を防ぐごみの出し方、収集車両の火災、スプレー缶の出し方、各種イベントの案内など            ごみらいふの主な内容            平成26年9月号：こだいら環境フェスティバル開催、小型家電回収ボックスを設置            平成27年3月号：集まれ！リサイクルきゃらばんへ、小型家電の宅配便による回収スタート            平成27年9月号：こだいら環境フェスティバル開催、意外と知られていないキャップの分別            平成28年3月号：ごみ分別アプリを開発、食物資源（生ごみ）をエコ活用しませんか            平成28年9月号：こだいら環境フェスティバルを開催、ごみゼロフリーマーケットを開催しました            平成29年3月号：「もったいない」が合言葉 食品ロスを削減しよう！</p>
2	説明会、施設見学会、イベントを通じた3Rに関する理解の促進	実施済み(継続中)	<p>自治会や地域団体等での市民説明会・出前講座での対話や、小平・村山・大和衛生組合や小平市リサイクルセンター等での施設見学会において、ごみと資源物の分別等に関する意識の向上を図っています。また、ごみ減量推進実行委員会や廃棄物減量等推進員と市の共催で実施している「ごみゼロフリーマーケット」「こだいら環境フェスティバル」「マイバッグキャンペーン」において、様々な取組に関する啓発を積極的に行い、市が取り組んでいる活動のPRと市民の環境に関する意識の向上を図っています。</p> <p>市民説明会・出前講座 平成26年度：15回、平成27年度：6回、平成28年度：8回            施設見学：平成26年度：3回、平成27年度：2回、平成28年度：5回            ごみゼロフリーマーケット、こだいら環境フェスティバル：各年度各2回            リサイクルきゃらばん（日時と場所を予め定めて実施する資源物の拠点回収）：各年度4回            マイバッグキャンペーン：各年度各2回</p>
3	ごみ問題に対する市民の関心の度合いに応じた啓発	実施済み(継続中)	<p>分別・適正排出の徹底、食品ロスの削減等を目的に、ごみ分別アプリの運用、パンフレットの音声（デジジー）版・点字版を作成したほか、社会科副読本及びキッズページ※の内容の充実を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向けに、平成28年4月には、社会科副読本「わたしたちの小平市」に食品ロスに関する内容を追加しました。平成28年12月には、キッズページ「ぶるべーのさんぼみち」内の「ごみ・リサイクル」のページを改訂し、配信しました。</li> <li>・主に若年層向けに、平成27年10月には、アプリ「小平トピックス」内で、ごみ分別アプリの運用を開始しました。</li> <li>・障がい者向けに、平成26年11月の分別変更に合わせて、パンフレット「私のまちのごみと資源の出し方」・「分別をよりわかりやすく」の音声（デジジー）版を作成しました。また、小平市社会福祉協議会の協力を得て、パンフレット「私のまちのごみと資源の出し方」の点字版も作成し、市内図書館、東部・西部出張所、小平市国際交流協会へ閲覧用として配布しました。</li> </ul> <p>※キッズページとは、主に小学校3～4年生を対象とした、平成22年11月に市のホームページ内に開設されたページです。</p> <p>アプリのダウンロード件数（ごみ分別アプリの）運用前（平成27年10月）：885、運用後（平成28年度末）：8,301 ※市把握</p>
4	子ども向けの啓発の強化、環境学習・環境教育の支援	実施済み(継続中)	<p>小学校での出前説明会にて、機会を捉えて清掃車やマスコット・キャラクターを活用するほか、社会科副読本及びキッズページの内容を充実させることで、啓発の強化を図っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年4月に、社会科副読本「わたしたちの小平市」に食品ロスに関する内容を追加しました。</li> <li>・平成28年12月に、キッズページ「ぶるべーのさんぼみち」※内の「ごみ・リサイクル」のページを改訂し、配信しました。改訂の具体的な内容は、ごみ・資源の量、ごみ組成分析結果、分別のルール、食品ロス削減、市のリサイクル施策に関するページの追加、及び、既存ページの改変を行い、内容を充実させました。また、小平・村山・大和衛生組合、収集業者、秘書広報課等による協力の下、燃えるごみの処理の流れに関する動画を撮影し、その動画に字幕を表示して掲載しました。</li> </ul>

5	ごみと資源の出し方パンフレットの見直し	実施済み (継続中)	平成26年11月の分別変更に伴い、パンフレット「私のまちのごみと資源の出し方」の内容を見直し、全戸配布しました。見直しに当たっては、ごみ減量推進実行委員会や、東多摩再資源化事業協同組合からの古布の現行品目以外の資源化可能品目などの意見を取り入れ、より分かりやすいものとなるよう検討しました。また、平成28年度にも、同パンフレットの見直しを行いました。
6	外国人向けのごみと資源の出し方パンフレットの作成	実施済み (継続中)	平成26年11月の分別変更に伴う、パンフレット「私のまちのごみと資源の出し方」の見直しに合わせて、小平市国際交流協会と協力し、外国人向けに、英語、ハングル語、中国語（繁体字・簡体字）の計4言語のパンフレットを作成しました。  作成部数 英語：800部、ハングル語：1,600部、中国語（繁体字・簡体字）：各800部
7	「雑がみ」や「プラスチック容器」の正しい分別の啓発の強化	実施済み (継続中)	市のパンフレットやホームページへの掲載、チラシの作成等を通じて、分別の啓発を図っています。 ・「雑がみ」については、分別方法や雑紙を排出する紙袋がない場合の問い合わせを受け、平成27年度に、雑紙袋の簡単な作り方を、市のホームページに掲載し、チラシを作成し、資源としての排出を呼びかけています。また、はがきの回収ボックスを市役所、東西出張所に常時設置し、市内郵便局には年2回、一定期間設置し、回収してリサイクルを実施しています。 ・「プラスチック容器」については、パンフレット「私のまちのごみと資源の出し方」に、プラスチック類の分け方・出し方として、プラスチック容器（資源物）、可燃ごみ、不燃ごみの分別をフローチャートで示すほか、資源化できる汚れの程度を写真付きで掲載することで、正しい分別の啓発を図りました。
8	資源循環の推進に向けたグリーン購入の呼びかけ	実施済み (継続中)	市役所内部では、エコダイラ・オフィス計画を推進する中で、新任研修や予算説明会等で呼びかけを行っています。また、市報における「ヘラスンジャー」の連載記事の中で、定期的に、グリーン購入の呼びかけを行っています。  ※「ヘラスンジャー」とは、分別収集などによるリサイクルをもっと身近に感じてもらうと、誕生した「生きカエル」が、誕生当初の1つの「R（リサイクル）」から、時代の変遷に合わせて「3R」に衣替えし、「ヘラスンジャー」に変身もしました。「ヘラスンジャー」は、「ぼくらはごみを減らすんだ」から振ったものです。 ※グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。
9	スマートフォンなどの新たな媒体を活用した、啓発・情報提供の検討	実施済み (継続中)	スマートフォン・タブレット端末向けに、平成27年10月に、「ごみ分別アプリ」の運用を開始しました。 それにより、自分の住む地区のごみと資源の収集日と出し方が容易に確認でき、必要に応じて品物の名称から分別区分を検索できるようにすることにより、分別と適正排出の徹底を図っています。  アプリの運用開始に当たっては、市のホームページやツイッターでの御案内、市報や「ごみらいふ」での記事掲載のほか、紙ベースの分別パンフレット「私のまちのごみと資源の出し方」にリーフレットを挟み込むこと、例年行っている自治会等に向けた年末年始のごみ・資源の収集日程に係る案内文書に本件を記載すること、市内の大学等にポスターの掲示を依頼すること等、機会を捉えて周知に努めました。
10	マス・コミュニケーションを通じたPRの実施	実施済み (継続中)	イベント開催や新しい取り組みを行う場合は、報道各社に積極的に情報提供（プレスリリース）を行っています。新聞やテレビ等に取り上げられることで、より効果的なPRにつながっています。  掲載内容 平成26年度：パソコンの宅配便による回収サービス開始（東京都で初めて提供事業者と協定締結）新聞掲載、月刊廃棄物「有料化・戸別収集導入に向けたごみ減量・資源化」掲載 平成27年度：月刊廃棄物「食物資源循環モデル事業」掲載 平成28年度：「食物資源循環モデル事業由来の堆肥を使用して栽培した野菜を使用したエコやきそば販売」（ごみゼロフリーマーケット）新聞掲載、「フードドライブの取り組み」（環境フェスティバル会場）テレビ放映 平成29年度：「食物資源循環事業由来の堆肥を使用して栽培した野菜の直売」（ごみゼロフリーマーケット）新聞掲載（2社）
11	親しみやすい啓発	実施済み (継続中)	イベントや小学校での出前説明会で、マスコット・キャラクター「ヘラスンジャー」を活用するほか、収集車両用マスク、啓発品（缶バッジ）、配布看板にマスコット・キャラクターを積極的に活用するなど、親しみやすさや分かりやすさを前面に啓発活動を行っています。

(2) 生ごみの減量（食物資源の資源化推進）

項番	施策名	実施状況	評価（取組状況）
12	食物資源循環モデル事業の規模拡大・リサイクルの手法の検討	実施済み（継続中）  ・実施済み（継続中） ・一部実施済み ・未実施	<p>ごみ減量の1つの方法として、生ごみを資源として位置づけ、資源化する食物資源化事業を市の重要な施策として取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度にモデル地区を指定し一部地域で開始し、平成24年度に市内全域に拡大し、3世帯以上を参加条件として、平成28年度の目標参加世帯を1,000世帯として取り組んできました。</li> <li>・平成28年度に事業内容の検証を行い、他市や他の資源物とのコスト比較、資源循環の仕組みづくり、今後の取組を実施報告書として取りまとめました。参加世帯の満足度も高く、参加世帯数や回収量についても増加傾向であることから、平成29年度から本格実施事業として取り組むこととしました。</li> <li>・家庭ごみ有料化・戸別収集移行まで、当面、1,000世帯の事業規模を継続し、コスト削減や参加世帯の拡大について検討を行っていきます。</li> </ul> <p>参加世帯数（資源化量） 平成26年度：761世帯（47t）、平成27年度：936世帯（59t）、平成28年度：989世帯（60t）</p>
13	食物資源リサイクルの充実と定着	実施済み（継続中）	<p>生ごみの資源化に関する事業である、食物資源循環事業、食物資源処理機器購入費補助事業、学校給食等の一次処理物再資源化事業を平成29年度に統合して食物資源資源化事業として取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物資源循環事業の参加世帯を募り、市内の環境イベントで食物資源由来の堆肥を無料配布し、食物資源リサイクルの啓発とPRを行っています。</li> <li>・ごみ減量推進実行委員会との協働で、ダンボールコンポスト講習会やEM菌バケツを使った堆肥化講習会を開催し、食物資源（生ごみ）の自家処理の支援を行っています。</li> <li>・ごみ・リサイクル情報誌「ごみらいふ」では、平成28年3月号で、「食物資源（生ごみ）をエコ活用しませんか」と題して、住宅環境や生活環境から、どの資源化方法がその人に合っているかを紹介しました。</li> </ul>
14	食物資源リサイクルの手法の研究（現在の民間施設での堆肥化以外）	未実施	堆肥化以外の食物資源リサイクルの手法については引き続き情報収集に努め、研究していきます。
15	食物資源由来の堆肥の農地利用の検討	実施済み（継続中）	<p>平成16年度より市の試験圃場において、市内農家の協力で食物資源由来の堆肥を利用して作物を栽培し、育成状況や土壌の検査を行い、堆肥の安全性や有効性、問題点等の検証を行ってきました。これまでの作物の生育状況は良好で、土壌分析でも問題がないとの結果が出ています。今後も市内農地での利用を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度のごみゼロフリーマーケットでは、食物資源由来の堆肥を使った野菜をPRするため、市内農家1軒の協力により、キャベツを栽培し、「小平やきそば」の具材として販売しました（新聞掲載）。</li> <li>・平成29年度のごみゼロフリーマーケットでは、市内農家2軒の協力により「小平やきそば」の他、キャベツと小松菜を「資源循環野菜」として販売しました。（新聞掲載）</li> <li>・果樹園農家1軒において、果樹栽培に活用されています。その他市内の園芸農家でも利用されています。</li> </ul>
16	水切りの徹底の啓発	実施済み（継続中）	市のパンフレットやホームページなどでの啓発のほか、水切りネット等の啓発品をイベント等で配布しています。
17	「もったいない」を強くアピールした、広報やイベントなどを通じた啓発	実施済み（継続中）	<p>ごみの組成分析の結果から多くの未利用食品がごみとして出されている実態を踏まえて、「もったいない」の意識啓発の一環として、未利用食品の回収を開始しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年3月からリサイクルきょうばんの回収品目に未利用食品を追加して、フードドライブ活動を開始しました。</li> <li>・平成28年度こいだいら環境フェスティバルでは、フードドライブの取材を受け、テレビ放映されました。</li> <li>・食品ロスの削減をテーマに啓発看板や収集車両用マスクを作成し、市民への啓発を実施しました。</li> <li>・ごみ減量推進実行委員会と協働で発行している、ごみ・リサイクル情報誌「ごみらいふ」平成29年3月号では、1面にて、「もったいない」が合言葉 食品ロスを削減しよう！と題して啓発を行いました。</li> </ul>
18	自家処理の促進のための支援	実施済み（継続中）	<p>家庭や事業所を対象に食物資源（生ごみ）処理機器購入費補助金制度を継続しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年3月発行の「ごみらいふ」にて、住環境や生活状況にあった自家処理方法を提案しました。</li> <li>・毎年、ごみ減量推進実行委員会とともに、ダンボールコンポストやEM菌バケツを使用した自家処理のための講習会を開催しています。</li> </ul> <p>食物資源処理機器購入補助金交付実績 平成26年度：40基、平成27年度：47基、平成28年度：40基 ダンボールコンポスト講習会参加実績 平成26年度：19名、平成27年度：17名、平成28年度：17名 EM菌バケツを使用した堆肥化講習会参加実績 平成26年度：47名、平成27年度：15名、平成28年度：9名</p>

### (3) 容器包装プラスチックの資源化推進

項番	施策名	実施状況	評価（取組状況）
19	全量容器包装プラスチックの資源化の実現	未実施	全量容器包装プラスチックの資源化の実現に向けて、小平・村山・大和衛生組合及び構成3市共同で、3市共同資源化事業の実現に向けて、資源化の推進や施設整備に向けた準備を進めています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年3月までに、3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会を39回開催</li> <li>平成28年12月に工事請負業者と仮契約締結</li> <li>平成29年1月23日に本契約締結</li> </ul>
20	消費段階からの減量の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施済み(継続中)</li> <li>・一部実施済み</li> <li>・未実施済み(継続中)</li> </ul>	市報や市のホームページ等による啓発や、マイバッグキャンペーンの実施により、環境に配慮した買い物を促しています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市報等を活用し、容器包装の少ない商品を選択する等の呼びかけを行いました。</li> <li>・廃棄物減量等推進員との協働により、年に2回マイバッグキャンペーンを実施し、市内スーパーのご協力をいただき、店頭にて、マイバッグ使用によるレジ袋削減を呼びかけています。</li> <li>・平成27年度には、廃棄物減量等推進員との協働により、市内で量り売り、はだか売り等を実施し、環境に配慮した取組を行っている小売店を調査するため、市内のスーパー等小売店にアンケート調査を行い、結果を市のホームページで広報することにより、市民に対し環境に配慮した買い物を促しました。</li> </ul>

### (4) 適正な処理の維持・向上に向けた処理体制の構築

項番	施策名	実施状況	評価（取組状況）
21	3市共同資源物処理施設（ペットボトル・容器包装プラスチック）の整備	未実施	平成26年2月に3市共同資源物処理施設の建設予定地周辺の自治会やマンション管理組合を対象に「3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会」を発足し、建設に向けた連絡協議会を平成29年3月までに39回開催してきました。 平成27年から平成28年度には、建設に向けた準備として、生活環境影響調査、地歴調査、土壌調査等の各種調査を実施し、発注仕様書を作成しました。 平成28年12月に工事請負契約を締結し、平成31年度に新施設稼働予定を目指して準備をすすめています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年9月に、「3市共同資源化事業基本構想」を、小平・村山・大和衛生組合及び構成3市で作成しました。</li> <li>・平成28年2月に「(仮称)3市共同資源物処理施設整備実施計画」を作成しました。</li> </ul>
22	ペットボトル・容器包装プラスチック以外の資源化品目の処理施設の整備（更新）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施済み(継続中)</li> <li>・一部実施済み</li> <li>・未実施済み</li> </ul>	平成27年度に作成した「(仮称)不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画」に基づき、平成28年度は、手選別ラインに係る検討や、ごみの組成分析調査結果により処理能力等について検討し、「(仮称)不燃・粗大ごみ処理施設整備基本計画（改訂版）」を作成しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年9月に、「3市共同資源化事業基本構想」を、小平・村山・大和衛生組合及び構成3市で作成しました。</li> <li>・平成28年2月に「(仮称)不燃・粗大ごみ処理施設整備実施計画」を作成しました。</li> <li>・現在の小平市清掃事務所を、新不燃・粗大ごみ処理施設の建設用地として平成30年度に、小平・村山・大和衛生組合に提供を予定しています。</li> </ul>
23	焼却施設等の更新	未実施	平成28年度に、小平・村山・大和衛生組合及び構成3市でごみ処理施設検討部会を立ち上げ、定期的な検討会議を開催しごみ焼却施設整備基本計画について検討しています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年1月に懇談会を設置し3月までに2回開催しました</li> </ul>

(5) 家庭ごみ有料化・戸別収集への移行

項番	施策名	実施状況	評価（取組状況）
24	家庭ごみ有料化	一部実施	家庭ごみ有料化・戸別収集への移行については、平成31年度中の実施に向けて取組を進めています。 ・平成28年7月に小平市廃棄物減量等推進審議会に「家庭ごみ有料化・戸別収集への移行の実施内容について」市長が諮問し、平成30年3月に答申をいただく予定です。 ・平成29年4月に移行に向けた基本方針を策定しました。 ・家庭ごみ有料化・戸別収集への移行についての実施計画素案を策定し、市報の全戸配布を行うとともに市民説明会、パブリックコメントを実施する予定です。 ・平成30年3月には、審議会の答申、市民説明会、パブリックコメントの内容を踏まえ実施計画を策定します。
25	戸別収集への移行	・実施済み(継続中) ・一部実施済み ・未実施	

## 2 個別施策

### (1) 3R（発生抑制・再使用・再生利用）推進施策

項番	施策名	実施状況 ・実施済み(継続中) ・一部実施済み ・未実施	評価（取組状況）
1	3R推進のための市内小売店舗の取組の促進	実施済み(継続中)	<p>・平成27年度には、市内で量り売り、はだか売り等を実施している等、環境に配慮した取組を行っている小売店を調査するため、市内のスーパー等小売店にアンケート調査を行い、結果を市のホームページで広報することにより、市民に対し環境に配慮した買い物を促しています。</p> <p>・平成28年10月には、市内スーパー等小売店に対し、「環境にやさしい買い物キャンペーン」「10月は3R推進月間」のポスター掲示を依頼することで、スーパー等小売店側からのPRを促し、過剰包装や食品ロスの削減の観点からの取組の協力を促しています。</p>
2	不用品交換、リサイクルショップ、レンタルサービス等の情報提供	一部実施	<p>生活用品交換コーナーは、情報提供を市役所、東西出張所、リプレこだいら等で紙による掲示のみで行っていましたが、平成26年5月からホームページ上の掲載を開始し、画像の閲覧も可能としました。また、リサイクルショップ情報については、小平商工会が運営するこだいらネットを通じて情報提供を行っています。</p> <p>生活用品交換コーナー登録件数 平成26年度：58件、平成27年度：112件、平成28年度：126件</p>
3	集団回収の促進	実施済み(継続中)	<p>自治会などが行政を経由することなく自主的に資源回収をすることで、その収益を団体の活動資金に充てることができ、地域コミュニティの醸成の一助となるほか、市の収集運搬委託費の抑制にも貢献しています。集団回収の実施方法やメリットについて市報やホームページなどで広報しており、新規で活動を始める団体もあります。集団回収量は、主に紙資源排出量が減少傾向にあります。</p> <p>資源回収団体補助金交付団体 平成26年度：107団体、平成27年度：114団体、平成28年度：115団体 新規登録団体実績：平成26年度：5団体、平成27年度：6団体、平成28年度：4団体</p>
4	小型家電リサイクルの実施	実施済み(継続中)	<p>平成25年4月に小型家電リサイクル法（使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律）が施行され、携帯電話、デジタルカメラをはじめとする使用済み小型家電から、金や銅などの有用金属や、レアメタルを回収し、再資源化することが可能となっています。</p> <p>・平成25年度のこだいら環境フェスティバルから回収を実施し、イベント回収、日時場所を定めての拠点回収（リサイクルきゃらばん）を年に6回のペースで実施し、啓発活動に取り組んでいます。</p> <p>・平成26年度には、国の実証事業に参加し、市役所、東部市民センター、西部市民センターに回収ボックスを設置し、ボックスによる常時回収を開始しました。</p> <p>・平成27年度には、都の補助金を活用し、市内図書館6カ所に回収ボックスを増設しました。平成27年2月からは、小型家電リサイクル法に基づく認定事業者（リネットジャパン株式会社）と協定を締結し、小型家電の宅配便による自宅回収サービスについて案内を開始しました。</p> <p>・平成29年4月からは、東京2020大会時の入賞メダル制作において、入賞メダルの原材料となる金・銀・銅を、携帯電話をはじめとした小型家電等から抽出されるリサイクル金属を活用することによって調達する、国民参画型のプロジェクト「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加しています。</p> <p>・小平・村山・大和衛生組合では、平成26年度から、粗大ごみとして収集した品物から選別し、リサイクルを図っています。</p> <p>今後は、小型家電リサイクル制度の市民への浸透、家庭ごみの有料化などにより回収量の増が見込まれることから、ボックス回収の拡大について検討してまいります。また、今後の小平・村山・大和衛生組合の粗大ごみ処理施設の更新に当たっては、手選別工程の追加など、小型家電リサイクルを有効に活用できるよう、引き続き、働きかけを行います。</p>
5	陶磁器リサイクルの実施	実施済み(継続中)	<p>ごみ減量推進実行委員会による平成23年度の事業開始以来、イベント回収と日時場所を定めての拠点回収を実施し、順調に推移しています。平成25年度からは市の事業として実施しています。平成28年3月には、回収場所として、民間事業者（スーパー）の協力をいただき、それまで出来ていなかった市の南側での回収を実施し、利便性の向上を図りました。平成29年度には、日曜日の拠点回収を実施し、平日に参加することができない市民の利便性の向上を図ります。今後も現在の回収方式を基本的な考えとして継続実施しつつ、より利便性の高い回収場所として常時回収を念頭に、その手法について検討します。</p> <p>回収実績 平成26年度：4,970kg、平成27年度：6,530kg、平成28年度：5,370kg</p>
6	せん定枝リサイクルの実施	一部実施(継続中)	<p>平成28年度より、リサイクルセンター敷地内で保管していた剪定枝チップの堆肥化業務委託を開始しました。引き続き堆肥化を実施するとともに、国の自粛要請の解除を待ち、市内での活用を進めます。</p> <p>【せん定枝リサイクルについて】 平成14年度から市内で回収した剪定枝をチップ化し、市内果樹農家の畑・公園・公共施設での敷材としてリサイクルしていましたが、平成23年東日本大震災以降放射能対策に係る国からの堆肥原料の流通自粛要請があり、剪定枝チップはリサイクルセンター敷地内で保管していました。</p> <p>剪定枝チップ化量累計（平成23年以降）：253t 堆肥化実績 平成28年度：72t</p>

7	スプレー缶・ガスカートトリッジ缶・ライターの資源化	実施済み(継続中)	平成26年11月より、スプレー缶・ガスカートトリッジ缶等に係る、排出時(穴あけ)、収集・処理時(爆発・火災)の事故の防止を目的に、スプレー缶・ガスカートトリッジ缶、ライターの資源化を開始しました。 スプレー缶・ガスカートトリッジ缶の資源化実績 平成26年度:11t、平成27年度:30t、平成28年度:31t ライターの資源化実績 平成26年度:0t(130kg)、平成27年度:2t、平成28年度:2t
8	新たな資源化品目の検討	実施済み(継続中)	平成26年11月より、スプレー缶・ガスカートトリッジ缶、ライターのほか、他の自治体の資源化品目を参考に、東多摩再資源化事業協同組合と協議し、新たな資源化品目を検討し、資源化を開始しました。 資源化した品目:スプレー缶・ガスカートトリッジ缶、ライター、金属製のなべ・やかん・フライパン(「アルミ製のなべ・やかん」から拡大)、ぬいぐるみ、かばん、帽子、ネクタイ、ベルト、羽毛布団、アルミコーティングされた紙バック(酒バックなど)
9	資源物の持ち去り行為対策	実施済み(継続中)	持ち去り行為対策として、定期的に青色灯設置車両による市内パトロールを実施し、年2回持ち去り行為監視月間として、廃棄物減量等推進員と連携し市内パトロールの強化、東多摩再資源化事業協同組合との連携により、GPS追跡調査を実施しています。GPS調査により、持ち去り資源の搬入が確認された事業所に対しては、市や関係団体を通じて、指導等を実施しています。  市内パトロール実施回数 平成26年度:18回、平成27年度:17回、平成28年度:19回
10	事業系廃棄物対策	実施済み(継続中)	市で発生する廃棄物(一般廃棄物)の多くは家庭からの物ですが、事業所から排出される事業系一般廃棄物についても3R推進の取組を求めています。 ・大規模事業者に対しては、事業用大規模建築物(延べ床面積3,000㎡以上の建築物)の所有者による廃棄物の発生抑制及び再利用に関する計画書を毎年提出していただき、廃棄物管理責任者の選任も求め、3R推進の取組を求めています。 ・中小の事業者に対しては、個別の指導や商工会など事業者団体と連携しながら、取組を求めています。
11	一事業者としての市の取組の推進	実施済み(継続中)	「第二次エコダイラ・オフィス計画」に基づき、外部施設を含めて市が行うすべての事務・事業において、減量等を進めるため、職員の新任研修において、分別等について説明し、発生抑制・再使用・再生利用の取組を求めています。 また、平成29年4月には、食品ロスを削減するため、庁内の掲示板において、歓送迎会等の宴会の際に、幹事から30・10運動(始まって30分と終わる10分前には、食事を残してごみにしないよう、席について食べる運動)について呼びかけを行っていただくよう依頼をしています。

## (2) 適正処理の維持・向上施策

項番	施策名	実施状況 ・実施済み(継続中) ・一部実施済み ・未実施	評価(取組状況)
12	適正排出指導・不法投棄対策	実施済み(継続中)	適正排出指導として、不適正な分別や不法投棄に対して、警告シール貼付や、ごみと資源の出し方パンフレット等の投函により、排出ルールの徹底を図っています。集合住宅については、管理会社を通じた排出指導も合わせて行い、改善を図っています。 不法投棄対策として、毎年6月と12月に不法投棄監視パトロールをクリーンメイトと協力して行っています。また、集積所に不法投棄禁止看板を貼り、集積所のパトロールを行っています。ごみ収集委託業者にも不法投棄物の報告と回収を依頼しています。  不法投棄監視パトロール実施回数 平成26年度:2回、平成27年度:2回、平成28年度:2回 不法投棄件数 平成26年度:94件、平成27年度:89件、平成28年度:107件
13	事業系廃棄物対策	実施済み(継続中)	排出事業者に対して、収集運搬業者や商工会等を通じて排出指導を行うほか、職員による直接指導を行っています。 ・収集運搬許可業者等を通じて処理される多量排出事業者(1日平均10kg以上のごみ・資源を排出する事業者)に対しては、小平・村山・大和衛生組合での搬入物抜き取り調査において、分別等の実態を把握し、不適正な排出に対し、収集運搬業者を通じて指導するほか、必要に応じて直接指導を行っています。 ・市が、家庭廃棄物と併せて収集している少量排出事業者に対しては、家庭廃棄物と同様、個人商店や商工会などを通じて排出指導を行っています。

## (3) 災害廃棄物対策

項番	施策名	実施状況 ・実施済み(継続中) ・一部実施済み ・未実施	評価(取組状況)
14	災害廃棄物対策	(未実施)	平成29年度中に、災害廃棄物処理計画を策定し発災後のごみやがれきの処理体制を確保する予定です。 その他、小平・村山・大和衛生組合や、「ごみ・し尿・がれきの処理に関する災害時応援協定」を締結している小平市清掃事業協同組合、「災害時における災害廃棄物運搬等の協力に関する協定書」を締結している東多摩再資源化事業協同組合と連携して、廃棄物関連施設や運搬車などの現況を把握する予定です。